

生産技術革新部門

愛知県豊橋市 みずたに 水谷 かずえ 一江 氏



- 作付面積：施設イチゴ0.5ha

(注) 数字は平成30年当時のもの

経営展開のポイント

- ・ 水谷氏は、「まだ国内いずれの産地でも実現していないイチゴの周年栽培を確立し、生産安定を図る」ことを経営目標に掲げ、新しい技術や情報は自分で試すを基本としたイチゴ作りを展開。
- ・ ハウスの1棟を実験農場と位置付けて、自身が考えるアイデアの実用化に向け、日々試行錯誤し続けている。また、新しい技術や情報は自分で技術試験を行い、有用性が確認された資材は、産地に積極的に情報発信し、地域全体の生産力向上に寄与する取組を行っている。
- ・ 水谷氏が開発した「吊り下げ式の移動式ベンチ」は、ベンチをスライドさせることにより作業通路が確保され、慣行栽培と比べて栽植密度を約65%増加させるなど施設の高度利用が可能となり、単収も7～8t/10a確保するなど高収量栽培が実現している。また、作業負担の軽減や管理の簡素化など、実用性も優れている。
- ・ 移動式ベンチは、市販品の園芸施設用部品で作れるため、農家が導入しやすく、農業者自身で設置工事を行うことが可能。近隣農家にも導入が進んでおり、農業関係誌にも取り上げられている。
- ・ 海外視察で病気の発生を抑制する育苗トレイを知り、積極的に導入。その効果を知った近隣農家も導入するなど、水谷氏の技術導入の視点は地域のイチゴ生産農家に大きく貢献するとともに、イチゴ以外の作物への応用も期待。